農業用水に関わって
～ 木曽川の潤い ～

鍋田土地改良区理事長　**白木　実夫**

弥富市の概要

名古屋駅から車で西南方向に 30 分ほど行った愛知県弥富（やとみ）市は、三重県木曽岬（きそさき）町と接しており、木曽川が流れています。

弥富市は、木曽川下流の水郷地域であり、金魚の生産額日本一として知られています。また、あきたこまちやコシヒカリの早場米の産地としても有名で、鍋田（なべた）地区では、8 月 13 日にＪＡの関係者が参加して、初出荷式が行われる予定です。

鍋田土地改良区の紹介

弥富市内にある鍋田土地改良区は、今年で 60 年の節目の年を迎えます。組合員数 1,327 名、排水賦課面積 1,374ha、用水賦課面積 1,001ha の中規模の土地改良区です。水田の標高は海抜－ 2m 前後（海抜ゼロメートル地帯）となっています。

私が鍋田土地改良区理事長を務めさせて頂いてから 15 年が過ぎようとしていますが、多くの方々に支えられてこれまでやってこられたと、改めて感謝申し上げます。

農業用水の変遷

昭和 34 年の伊勢湾台風を境にして、大きく農業用水が変化しました。江戸時代中期以降、新田開発されてきた当地域は海抜ゼロメートル地帯のため、クリーク（用水路、排水路などの機能を持つ堀）の多い水田で、船での往来が一般的でした。伊勢湾台風以降は、各地で圃場（ほじょう）整備事業が順次行われ、クリークに替わり、用水路から農業用水が供給されるようになりました。

昭和 42 年に大干ばつがあり、その後、深井戸を掘って、水中ポンプから大量の地下水が汲み上げられました。工場による大量の地下水の汲み上げも行われた結果、海抜ゼロメートル地帯の地盤沈下が進行しました。こうした社会状況の中で、地下水の汲み上げ規制が行政により施行されるようになりました。

大干ばつ時に利用した深井戸施設

木曽川用水事業

昭和 39 年に国営木曽川総合農業水利事業が採択され、その後、昭和 44 年に水資源機構（当時の水資源開発公団）が事業を承継し、木曽川用水施設やそれぞれの組織が整備されました（昭和 57 年度に完成）。

鍋田土地改良区も海部（あま）土地改良区から管理委託を受け、昭和 55 年から本格的に用水の維持管理業務を開始しており、各農家へは用水機場からポンプで加圧された水がパイプラインを通じて供給され、給水栓から潤沢に木曽川の水を利用できるようになりました。これも木曽川大堰、木曽川用水総合管理所、海部土地改良区のおかげであると思っています。

木曽川用水は、本格的な通水開始から 30 年が経過し、各施設の老朽化が進んでいます。鍋田土地改良区として、そうした施設の更新、地盤沈下対策事業、土地改良

施設維持管理適正化事業、緊急改築事業などに取り組んでいます。今後、関係する皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

農地・水・環境保全向上対策

この事業は、地域の農道・農地・水路・ため池等の土地改良施設の長寿命化による地域資源の保全管理と農村環境の保全向上を図る目的で平成 19 年度から 5 年間、国が 50%、県が 25%、市町村が 25% の負担で、事業の予算化がなされて始まりました。水田 10a あたり 4,400 円、畑 10a あたり 2,800 円の資金が活動団体に交付され、各活動組織は、それぞれの地域で多様な活動をしています。

我々の組織でも、「森津地域資源保全隊」として、様々な活動を展開してきました。平成 19 年 8 月に 64 名で愛知県豊橋市近隣の土地改良施設の見学に行きました。その中で、視察研修において水との関わりについてのクイズを出題しました。

クイズ「ネットメロン 1 個が収穫されるまでに、根から吸収される水の量は何リットルでしょうか。」

皆さんは何リットルであると思われますか。一番近い答えを出してくれたのは小学生でした（答えは 92 リットル）。

農家滞在型体験研修の受け入れ

平成 22 年から 24 年までの 3 年間、水資源機構の新規採用職員滞在型体験研修で 4 名を我が家に受け入れることができ、感謝しています。我々にとっては、機構若手職員の方に木曽川の水を利水している農家の現場を直にみてもらうことは嬉しい限りです。今後も継続していただけることを願っています。

農家滞在型体験研修の一コマ（キュウリの収穫）

木曽川大堰から農家への配水

木曽川大堰

パイプラインの末端

農作物へ

森津用水機場